

事業の背景・目的

平成28年に市内でクビアカツヤカミキリ(以下、「当該虫」という。)が確認されて以降、当該虫が拡散し、食害により樹木が衰弱・枯死し、花や葉の付きが悪くなる景観破壊や、枝折れや倒木による住民への二次被害が懸念されている。

これまで、急激な被害の拡大に対応できる人材が不足していたことから、十分な防除対策が困難であった。複数の脱出孔あり、また、侵入孔から多くのフラスを排出する被害木は、幼虫を全て駆除し回復させることは困難であり、防除対策としては伐採処分することが最も有効だが、被害木の多くは大きな老木であり、多額の処分費用と労力を要することから、本事業により効果的な防除活動を推進する。

事業の内容

事業① 啓発事業

(1)市の広報紙やホームページ等による啓発 (2)住民・市民ボランティア等と協働による防除 (3)殺虫剤や防除用ネットの補助

事業② 被害木確認・防除方法支援事業

(1)被害木の認定及び薬剤や防除用ネットなど防除方法の支援（一部外部委託） (2)市民、市民ボランティア等からの情報提供及び成虫駆除

事業③ 被害木伐採事業

トリアージの結果、回復困難なものを優先度の高い順に伐採

(1)複数の侵入孔からフラスが排出されている (2)手が届かない高さからフラスが排出されている (3)衰弱・枯渇し、倒木の危険性がある

得られた成果

啓発事業の成果として、市民から多くの情報が得られ、民有地等で新たに**340**本余の被害木を認定し、防除指導を行った。また市民ボランティア「クビアカみつけ隊」では新たに**40**名が加わり、被害木の確認延べ**80**本程度、成虫を**180**匹、幼虫を**2**匹を捕殺した報告を受けている。

市有施設等については、全庁をあげて取組み、施設管理部署で被害状況を確認して薬剤を注入し、防虫ネットを巻いた他、栃木県クビアカツヤカミキリ被害対策協議会で組織する近隣の市町と情報を共有した。

市有施設等の被害木を**40**本余伐採処分したが、市内にはまだ数多くの被害木があり、被害木を減らすには、さらに防除活動を推進しなければならない。

被害木の認定及び薬剤や防除用ネットによる防除指導では、一部を外部委託することにより、速やかに対処することができた。

被害木伐採の様子

